賑わいづくり施策「発見」マニュアルについて

国土技術政策総合研究所（国総研）
都市研究部　都市施設研究室

コンセプト：**まちなかの人の動きや街路空間を「はかる化・見える化」**

マニュアルでは次の２つの手法を提案。

（１）　ビデオ撮影やヒアリングを活用した**簡易な調査手法**

（２）　歩行空間のつながり等を表現する指標による**ストリートポテンシャル評価**手法

（１）簡易な調査手法　について

Ａ）**歩行者の通行量（分布）を「はかる」**：手順は次の①→②→③

① 動きながらビデオ撮影（自転車に固定したビデオ等）

② 地図上でのデータ化（個人属性情報も想定で入力、歩行・溜まりも区別）

③ 分析（区間ごとの歩行者数線密度の算出、属性ごとの集計）

→特定時点における**歩行者通行量の分布・特性が「見える」**

メリット：調査を随時実施可能。
属性ごとの分析からマーケティングも可能

Ｂ）**歩行者の回遊経路（パターン）を「はかる」**：手順は次の①→②→③

①　街頭でのヒアリング調査（歩行経路を聞き取り、予定も含む）

②　地図上でのデータ化（経路、立ち寄り先等）

③　分析（属性ごとのパターン抽出等）

→まちなかにおける**歩行者回遊経路のパターン・特性が「見える」**

メリット：技術的に容易。被験者の同意を得やすい。
回遊の意図についてもデータに反映可能

（２）ストリートポテンシャル評価

〇ストリート評価指標は次の２つの指標で評価。（詳細はマニュアル末尾の資料編参照）

・**つながりの良さ指標**　　（周辺の歩行者ネットワークとの「つながり」を評価）

・**通り掛りやすさ指標**　　（エリア内ネットワークでの「通り掛りやすさ」を評価）

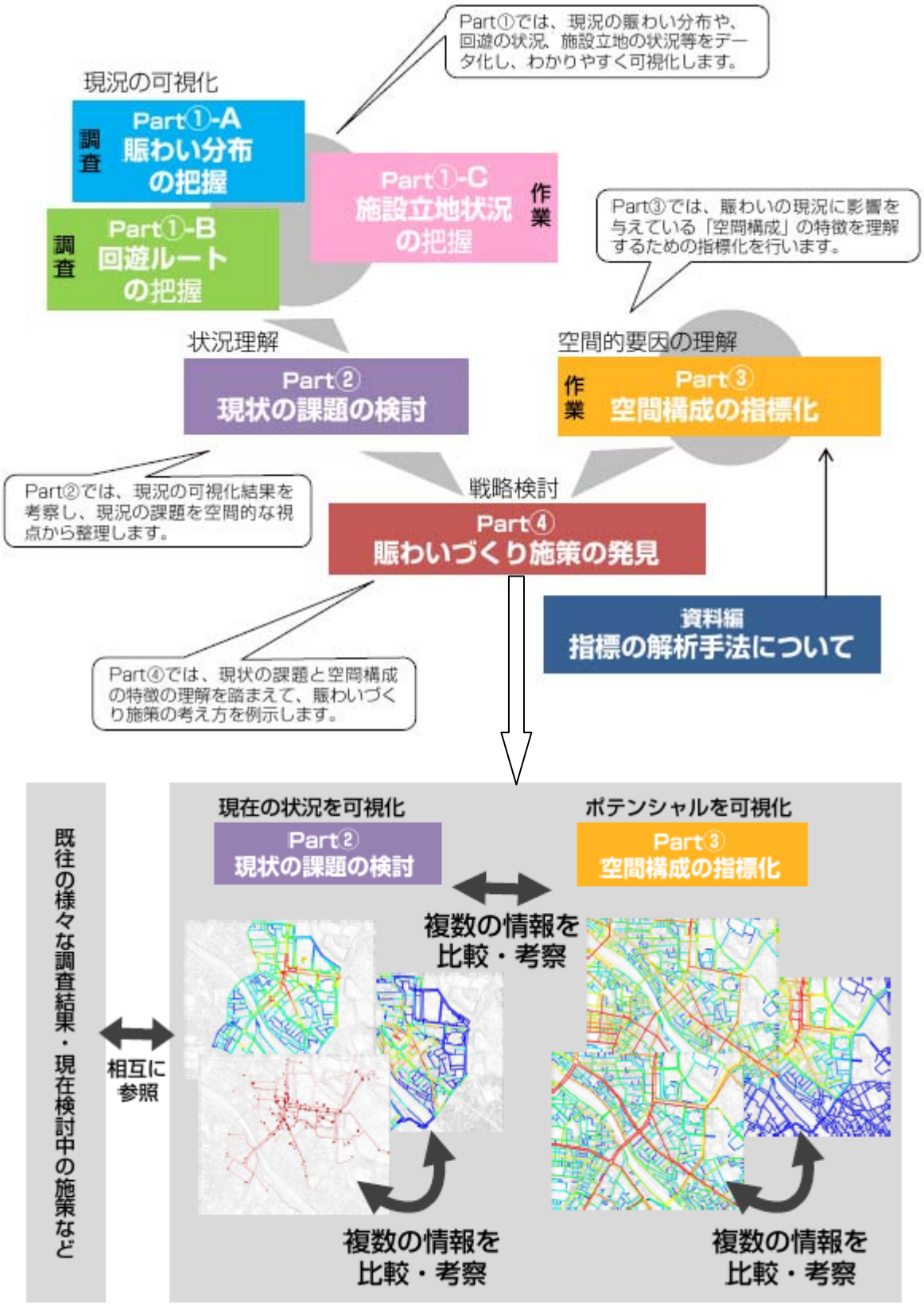
〇「ポテンシャル」と「歩行者実態」とのギャップがある地域を「発見」！

→（ポテンシャルを生かして賑わいを生み出す施策は何だろう？）

→　施策発見の手がかりに

※マニュアルの活用法等については適宜相談にのりますので、お気軽にご連絡下さい。

（→tosisise@nilim.go.jp）

※マニュアル等については以下の HP 参照。データのダウンロードも可能です。
〇記者発表資料→http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/kisya/journal/kisya20140327.pdf
〇都市施設研究室→http://www.nilim.go.jp/lab/jcg/index.htm
〇マニュアル→http://www.nilim.go.jp/lab/jcg/index.files/nigiwai.pdf

「賑わいづくり施策発見マニュアル」の構成